



熊本再春医療センター医療連携室だより



# 再春

令和5年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地  
熊本再春医療センター  
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



3月に当院の屋上から撮影しました。満開の桜の奥には合志市による土地区画整備事業が進行中です。

## 病院の理念

思いやりの心で  
患者、地域、職員に愛される病院

### 病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

## Contents

1. 院長あいさつ ..... 2
2. 診療科紹介【小児科】 ..... 3
3. 「もの忘れ外来」の開設について ..... 4
4. 開放型病院登録医紹介【たしろクリニック】 ..... 4
5. 第12回『医療連携の集い』 ..... 5
6. 開放型病院登録医紹介【中嶋内科】 ..... 5
7. 日本難病看護学会認定難病看護師「難病ケア助け隊」 ..... 6
8. 重症心身障害看護師としての活動について ..... 6
9. 採用・異動者からの挨拶 ..... 7~10





## ご挨拶

病院長 上山 秀嗣

令和5年度を迎え、みなさまには当院に対して暖かいご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の発生から3年半が経ち、いよいよ5月8日からは5類感染症に引き下げられることとなりました。今後は行動制限や入院勧告ができなくなり、医療費は原則自己負担となります（高額治療薬代は公費負担）。保健所による行政介入がなくなり、入院調整は病病・病診連携で行うこととなります。熊本県の場合、10月1日からは全ての医療機関でコロナ診療を行うこととなります。マスクの着用は個人判断に委ねられますが、医療機関や高齢者施設内ではマスク着用が推奨されます。オミクロン株に変異してから重症度は低下したものの感染力は増大していますので、本当にこの方針で大丈夫なのか懸念されます。しかし、経済回復のためには多少の感染増大には目をつむり、重症者や死者が増えないようにコントロールしていく必要があると考えています。今後第9波が来るか否かは全くわかりませんが、仮に第8波より大きな波が発生した場合には医療崩壊が起こる危険性もあり得ると思われまます。医療機関のみなさまにおかれましては、今後の予測が困難な状況ではないかとお察し申し上げます。

令和元年11月に着工しました合志市による「御代志地区土地整備事業」ですが、昨年10月に熊本電気鉄道「再春医療センター前駅」の移設工事が

が終了し、電車通勤者にとっては大変便利になりました。7月には交差点の移設工事が完了する予定で、その後病院前には各種商業施設が入る予定ですので、病院前は賑やかになると期待しています。国道387号線の拡幅工事等も進行中であり、工事期間中は当院に来院される際に迂回路を通る必要が出て参りますので大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承の程お願いします。

当院は3月8、9日の2日間にわたり日本医療評価機構が行う病院機能評価(3rdG Version 2.0)の訪問審査を受けました。5年に一度の審査で今回が4回目となります。1年前より全職員で準備をしてきましたが、「医療の質」を上げるための方策を模索する貴重な機会となりました。結果は後日判明する予定ですので、吉報を待ちたいと思っています。

コロナ禍により3年間にわたり開催できませんでした関連医療機関のみなさまとの連携の会、「医療連携の集い」ですが、今年は6月3日(土)にホテル日航熊本において開催予定です。多数のみなさまのご参加をお待ちしています。

当院は熊本県における地域医療支援病院、難病診療分野別拠点病院、県指定がん診療連携拠点病院、地域医療連携拠点病院として責任ある地域医療への貢献に努めてまいりますので、皆様には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## ◆スタッフ紹介

小児科部長	今村 穂積	(平成7年卒)
小児科副部長	池田ちづる	(平成11年卒)
小児科医長	百崎 謙	(平成15年卒)
小児科医長	藏田 洋文	(平成18年卒)
小児科医師	木下 万莉	(平成30年卒)

## ◆当院小児科の特徴

感染症、アレルギー、呼吸器疾患、消化器疾患、腎泌尿器疾患など、小児科領域全般にわたって外来・入院診療を行っており、救急搬送も受け入れています。当院小児科は其中でも、重症心身障害、てんかんなどの神経筋疾患、発達障害、不登校・心身症について特化しています。

## ◆重症心身障害

重度の知的障害・肢体不自由が重複している状態です。外来にて呼吸・栄養などの管理、状態に応じて入院加療を行っています。在宅移行支援、レスパイト入院、多機能型通所事業などの支援も行っています。また重症心身障害児・者病棟があり、80名が長期入院されています。

## ◆神経筋疾患

当院は日本小児神経学会小児神経専門医制度研修施設にもなっており、神経源性・筋源性疾患の診療を幅広く行っています。特にてんかんに関しては症例も多く難治性の方にも対応しており、入院でのビデオ脳波、画像診断、投薬治療も行っています。

## ◆発達障害

知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動障害など、身体・行動・学習・言語のいずれかに不全を抱えた状態です。そのため日常生活活

動において支障をきたしており、当科ではその診断・支援を行っています。

## ◆不登校・心身症

頭痛・腹痛などを頻繁に訴え、起立性調節障害や過敏性腸症候群などの病名で通院されている児童が多数おられます。また体調不良、不適な環境、発達障害などのために登校できない小中学生が、特にコロナウイルス流行後に増えています。外来通院で改善が見られない場合、長期入院し病院の敷地内にある黒石原支援学校への通学も行っています。

◇小児科診療を受けている方で、例えば重症心身障害とてんかん、発達障害と不登校などの様に同時に様々な問題を抱えておられることが多々あります。単独の疾患だけではなくその小児の全体を把握し対応していくことによって、治療・環境調整などを行っていきます。

◇学校や支援施設などにも協力を依頼し、地域に根差した診療を行っていきます。当科は熊本赤十字病院・熊本市民病院・熊本大学病院などと密に連携をとっており、集中治療が必要な方、特殊な外科治療が必要な方は診療依頼をしています。





# 「もの忘れ外来」の開設について

当院では令和5年4月より「もの忘れ外来」を開設しました。今や認知症は国民病であり、65歳以上の6人に1人が認知症を発症すると言われていています。認知症には多くの原因があり、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症といった3大病型の他に、慢性硬膜下血腫や甲状腺機能低下症などの治療可能な病気も含まれます。この外来では専門医により各種画像診断などを駆使して早期診断し治療を行うことはもちろん、生活指導や栄養指導なども多職種で対応します。当院では専門外来を主体としていますので、診断確定し治療方針が決定された場合には、かかりつけ医の外来でみて頂くことになります。

以下の方法で運用しますので、もの忘れが気になる方はお気軽に受診されてください。

## 1) 受診方法

当院「外来予約センター」による完全予約制とします。まず、かかりつけ医を受診して頂き、紹介状を持参のうえで、電話予約されてください。

TEL : 0120-242-883 (直通)

FAX : 096-249-1900

初診時には ご家族の同伴 をよろしくお願ひします。

## 2) 診療日

第1, 第3週の金曜日 午前中 になります。

1名につき1時間枠で、1日に2枠(10～11時、11～12時)です。

## 3) 担当医

脳神経内科 石崎 雅俊 (認知症学会専門医、  
神経内科専門医)

” 上山 秀嗣 (神経内科専門医)

## 4) 診療内容

最初に詳しい問診を行います。続いて医師による神経学的診察、知能検査を行います。必要に応じて下記の検査を行います。

- ① 血液検査  
(血算、生化学、甲状腺ホルモン、血糖、  
ビタミンB1・B12など)
- ② 頭部CT検査
- ③ 頭部MRI検査
- ④ 脳波検査
- ⑤ 脳血流シンチグラム
- ⑥ MIBG心筋シンチグラム
- ⑦ ドパミンシンチグラム
- ⑧ 髄液検査 (アミロイドβ、タウ蛋白測定)

## 開放型病院登録医紹介

# たしるクリニック

院長/田代 和弘

熊本県菊池郡大津町大津1212-27

TEL 096-340-3220 FAX 096-340-3230

診療内容/胃腸科、肛門科、消化器科、内科  
アレルギー科、リハビリテーション科

診療時間/ 9:00～12:30

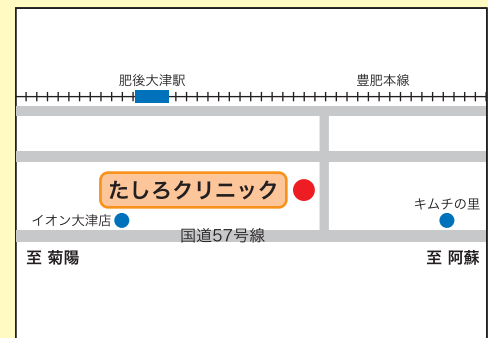
14:00～17:30 (木・土曜日は午後休診)

診察日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時00分～17時30分	○	○	○	×	○	×	×

たしるクリニック 田代院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

大津町国道57号線のそばに位置し、消化器系を中心に、地域の患者さんに向けた診療をおこなってられます。

消化器系領域の一次診療、胃カメラ、大腸内視鏡の検査および肛門科領域の診療・手術などをされておられます。





# 第12回『医療連携の集い』

副院長 緒方 宏臣

令和5年6月3日（土）、ホテル日航熊本において、令和元年度以来4年ぶりとなる「第12回熊本再春医療センター医療連携の集い」を開催しました。梅雨入りしたばかりで天気が心配されましたが、お陰様で晴天の中執り行うことができました。当日は院内外含め171名の参加があり、盛況のうちに終了することができましたことを御礼申し上げます。

開放型病院運営連絡協議会、地域支援病院諮問委員会に引き続いて、5階「天草」の会場において講演会を行いました。最初に「診療支援部からのお知らせ」を行いました。令和3年度に病院の理念を、“思いやりの心で患者、地域、職員に愛される病院”と改訂したこと、新病院建て替え事業の経過等、このコロナ禍3年半あまりの出来事についても併せてお知らせいたしました。続いて行われた特別講演では、上山院長が座長を務め、統括診療部長の中村医師より「コロナ5類移行における対策と課題」について、当院のこれまでのコロナ対策と今後の課題についてわかりやすく講演していただきました。続いて循環器内科部長の外牧医師より「当院における循環器診療について」というテーマで当院の循環器内科の診療内容等について講演していただきました。講演会終了後は、会場を「阿蘇」に移して意見交換会が行われました。上山院長の開会の挨拶、菊池郡市医師会会長の樽美 光一先生による来賓挨拶と乾杯の御発声の後に懇親会を行いました。樽美先生からは当院への期待を込めた大変温かいご祝辞をいただきました。宴も盛り上がり、中村統括診療部長の診療科医師紹介が行われ、最後は石崎診療支援部長の閉会の挨拶で幕を閉じましたが、多数の皆様方と久しぶりに『顔が見える』懇親を深めることができましたことを御礼申し上げます。

当院は今後も地域医療支援病院としての役割を果たすべく、菊池医療圏をはじめとする近隣医療機関の皆様方との医療連携を深めて参りたいと思っておりますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

来年は第13回の「医療連携の集い」をホテル日航熊本にて開催予定です。多数の皆様のご出席をお待ちしております。



講演会の様子



意見交換会での上山院長の挨拶

## 開放型病院登録医紹介

### 中嶋内科

院長／中嶋 博徳

熊本県熊本市北区碓川町1134

TEL 096-245-0005 FAX 096-245-3975

診療内容／内科、小児科、  
放射線科、リハビリテーション科、

診療時間／ 8:30～12:00  
13:30～16:00（水曜日のみ）

診察日	月	火	水	木	金	土	日
8時30分～12時00分	○	×	○	×	○	○	×
13時30分～16時00分	×	×	○	×	×	×	×



中嶋内科 中嶋院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんを紹介いただいております。

熊本市北区に位置し、呼吸器疾患、小児疾患の対応を行っております。

その他、ワクチン接種を行っております。

## 日本難病看護学会認定難病看護師「難病ケア助け隊」

難病看護師：松岡 由紀子、本山 江利、甲斐 朋美、白谷 佳代、徳光 美子

熊本再春医療センターは、熊本県の難病医療拠点病院としての役割を担っており、現在、5名の日本難病看護学会認定の難病看護師が在籍しています。日本難病看護学会では、国民の健康と福祉に貢献することを目的とし、難病患者さんの医療およびケアの改善を推進しています。私たち5名も各々の病棟で難病看護の質の向上のため主体的に取り組んでいます。

神経筋難病は、治療方法が確立されていないことから、看護師には患者さんのみならず家族支援に関する幅広い知識と技術が必要となります。また進行性であることから、症状の進行と発達段階に応じた段階的なアプローチとフィジカルアセスメント力が重要となります。このような神経難病看護における専門的知識や質の高い看護実践能力の向上を図るため、私たち認定看護師は看護職員・関係職種へ講義や技術演習を企画し実施しています。さらに現場で段階的アプローチとして困難を抱えているのが、意思決定支援です。意思決定支援で重要なのは日頃からの信頼関係の構築であり患者・家族の気持ちの揺れに寄り添うことであると考えます。しかし、治療経過の中で医療者は多くの困難や悩みなどを抱え込むことがあると思います。少しばかり平均年齢が高い私たちの豊富な経験を上手く活用していただきたいと考えています。

私たちは、院内では委員会やラウンドなどの活動をしています。地域のみならずみなさまにも顔なじみの存在となり相談相手となれるように頑張っていきたいと思えます。どうぞ私たちの存在を少しでも知っていただき気軽にご相談ください。



## 日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師としての活動について

重症心身障害看護師：古澤 桂子、船津 巴、川口 博美

重症心身障害看護師は、重症心身障害の看護分野において、高い倫理観と熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護を実践し、重症心身障害看護領域における看護ケアの向上を図ることをめざしています。

当院には、私たち3名の重症心身障害看護師が在籍しており、つくし病棟に勤務しています。

重症心身障害児（者）のみなさんは、言語的コミュニケーションが難しく、意思の表出が乏しいなど看護者・介護者が患者さんの思いを捉えにくいという特性があります。そのため、私たち看護師は、高い倫理観と専門知識、個性を捉えた看護が必要と常に感じています。

重症心身障害看護をとりまく動向として、近年医療の進歩により、重症心身障害児の低年齢化や医療的ケア児が増加しています。一方で、重症心身障害者の高齢化により、癌などを併発する事例もあり、医療的ケアがより重要になっていることから、高いアセスメント力とより個性のある看護実践が求められています。

私たちは、低年齢層の方々に対しては、安全面を考慮しつつ遊びなどを通して、個々の成長・発達が促せるように関わっています。高齢層の方々には、安楽や快を重視し「その人らしい幸せとは何か」を常にスタッフ全員で考え関わっています。医師・児童指導員・保育士・理学療法士など多職種と連携を図り、療育やケアの充実に努めていきたいと考えています。

また、病棟にはレスパイト入院の方もおられます。何らかの事情で一時的に在宅介護が困難になった方々です。利用されるみなさんが家族と離れ、寂しい思いをすることがないように、ご家族に在宅での様子を伺い、できるだけ在宅での生活に近づけるように療養環境を整えています。また、ご家族にも安心して頂けるように看護・介護を行っていきたく思いますので、お困りのことがあればどうぞご相談ください。



# 採用・異動職員からのごあいさつ

## ■ 医師

### 呼吸器科医長 須加原 一昭

本年4月より配属となりました呼吸器科の須加原一昭と申します。当院には2008年4月から2012年3月まで4年間勤務していたことがあり、11年ぶり2回目の勤務となります。今回は新病院に建て替わっていることもあり、新しくきれいな環境で懐かしい顔のスタッフとも一緒に楽しく勤務を開始させていただいています。専門は呼吸器内科、感染症ということもあり、前任地でもCOVID-19対応などを担当してきました。上山院長が示されている病院の方針の一つに「感染症に強い病院」というのがありますが、少しでも当院、地域のためにお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 呼吸器内科医師 大江 浩平

本年度より熊本再春医療センターにてお世話になることになりました呼吸器内科の大江浩平と申します。2019年に熊本大学医学部を卒業し、2年間の初期研修を経て熊本大学病院呼吸器内科医局に入局しました。昨年までは福岡県の社会保険大牟田天領病院にて勤務していました。医師5年目の身で専門といえるようなものはまだまだありませんが、こちらでは緩和ケアチームやレジメン委員会などに所属させていただくことになりました。ひとつひとつの経験を学びの材料とし、その学びを少しでも患者さまや病院へ還元できるよう努めていきたいと思っております。若輩者ではございますが何事に対しても精一杯頑張っている所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

### 呼吸器内科医師 秋原 健人

今年度より熊本再春医療センターで勤務させていただくこととなりました、呼吸器内科 秋原健人と申します。熊本大学医

学部医学部を卒業後、熊本労災病院での初期研修を経て、熊本大学呼吸器内科へ入局し、昨年度までは大学病院に勤務していました。熊本再春医療センターでは、市中病院として大学病院で経験した症例とはまた異なる疾患を診療し、内科医としての経験を積みたいと考えております。

至らぬ点も多く、近隣の先生方、医療スタッフの皆様方には今後ご迷惑をおかけする場面も多々あると思っておりますが、合志市の医療に貢献できるよう、精一杯前進する所存でございます。ご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 整形外科医師 樽美 備一

整形外科後期研修医3年目の樽美備一と申します。

今年から1年間勤務させて頂く事となりました。分からない事ばかりでご迷惑をおかけする事もあるかと思っておりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

今回のご挨拶の規定文字数が300文字以上との事ですので、残り200文字で自己紹介をさせていただきます。

出身は熊本県菊池郡大津町です。大津町立大津小学校を卒業後、熊本大学教育学部附属中学校へ入学、毎日1時間の電車通学は大変でした。高校は早稲田佐賀高校へ入学し、唐津で3年間寮生活を送りました。田舎での生活に飽き飽きした事もあり、大学は神奈川県川崎市にある聖マリアンナ医科大学へ進学致しました。都会での生活を捨てきれず、関東残留を希望しましたが、親に勘当されかけたので熊本へ戻って参りました。

1年間という短い間ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

### 整形外科医師 富野 航太

初めまして、整形外科の後期研修医3年目の富野航太と申します。研修終了後、大学病院・熊本医療センターでそれぞれ1



年ずつお世話になり、4月より熊本再春医療センターで勤務させて頂くこととなりました。熊本再春医療センターでは、実際に自分で執刀をさせて頂く機会が増えるということをお先輩方から聞いており、自分が整形外科医として成長できるいい機会と考えております。また、包括ケア病棟があるということで術後長期入院される方も多く、これまであまり深く関わることがなかった術後のリハビリテーションの経過についてもじっくり確認することが出来るため、周術期の管理等も含めて貴重な経験をさせて頂けるいい機会になると考えております。まだまだ未熟な面が多く、先生方や病院のスタッフの皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、早く新しい環境に慣れて、この菊池地域の医療に貢献することが出来るように努めて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

### 脳神経内科医師 藤本 彰子

本年度より脳神経内科医師として採用となりました、藤本彰子と申します。

熊本再春医療センターでの勤務は今回で3度目となります。神経難病リハビリテーションに興味があり、国立精神・神経医療研究センターで研修を重ね、リハビリテーション専門医を取得しました。脳神経内科医としての診療に加え、リハビリテーション医としても患者様に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

### 脳神経内科医師 原 健太郎

2023年4月から熊本再春医療センターへ配属となりました、医師11年目の原健太郎と申します。出身は大阪府ですが、熊本大学を卒業後、熊本医療センターで初期研修を修了し、熊本大学脳神経内科に入局しました。熊本大学病院の他、熊本医療センター、済生会熊本病院、熊本南病院で脳卒中、てんかん、神経難病など様々な患者さんを診療させて頂きました。当院の特色の一つに、神経難病拠点病院として運動ニューロン疾患、筋ジストロフィー、パーキンソン病関連疾患などを代表とする神経筋疾患の継続的診療があります。神経筋疾

患の多くは慢性進行性の経過を取り、難病と呼ばれる通り完治困難な疾患ではありますが、地域医療に貢献できるよう日々勉強して参りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

### 麻酔科医師 笹岡 美有希

今年度から熊本再春医療センターで勤務させて頂くこととなりました、麻酔科の笹岡美有希と申します。久留米大学出身で、済生会熊本病院で2年研修したのち、熊本大学の麻酔科に入局致しました。昨年度までは熊本労災病院で勤務しておりました。八代という土地で多くの症例を経験する事ができました。

4月から熊本再春医療センターに勤務して、柴田部長にさまざまな事を教えていただき、コメディカルのみなさまも優しく、他科の先生方も気さくに話して頂き、とても過ごしやすい環境で感謝しております。まだまだ未熟ではございますが、一生懸命頑張ろうと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## ■ コメディカル

### 薬剤部長 田中 誠

令和5年4月より熊本再春医療センター薬剤部で勤務しております田中誠と申します。薬剤部には、2023年4月現在、新人薬剤師1名を迎え薬剤師11名が在籍し、調剤、製剤、薬品管理、抗がん薬等の調製、医薬品情報提供、病棟業務、医療安全および治験など幅広い業務を行っています。薬剤師全員が医療チームの一員として専門性を活かすことで、患者さんを中心とした、最良の医療・薬物療法を提供できるよう日々精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## ■ 看護部

### 副看護部長 竹下 弘子

この度、4月1日付で熊本医療センターより昇任で参りました。



私の母校があった地に戻ってこれることができ、看護師としての原点である当院で副看護部長として出発できることを大変うれしく思います。

看護学校卒業後、そのまま当院に就職しました。当時はまだ結核病棟があり、何枚もガーゼを重ねた分厚いマスクと、予防衣を着て仕事をしていました。今の感染対策からは到底考えられない格好でしたが、同僚とともに日々楽しく充実した毎日を過ごしました。その後、看護学校の教員となり、平成17年度～平成19年度の閉校までの3年間で当院附属看護学校で働かせていただき、自分の母校を閉めるという大変貴重な経験をさせていただきました。

今回、再び当院に異動となりましたが、病院もすっかり建て替わり、当時の懐かしさよりも、新たな環境に身も心も引き締まる思いです。熊本再春医療センターの一員として微力ではございますが、精進してまいります。何卒よろしく願いいたします。

### つくし1病棟 看護師長 林田 真由美

令和5年4月1日付けで、菊池恵楓園より異動してまいりました。つくし1病棟の林田真由美と申します。私は、熊本再春荘病院で看護師となり、たくさんの方を学ばせていただきました。今回2年ぶりに、熊本再春医療センターに勤務させて頂くことになりとてもうれしく思います。つくし1病棟は、重症心身障害児（者）の病棟で、患者さんとの触れ合いの中で、患者さんの笑顔にとっても癒されています。患者さんにとって楽しいと感じていただける日々であるように一生懸命頑張りたいと思います。皆様には、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、よろしく願いいたします。

### 7階病棟 看護師長 西岡 恵子

4月1日付けで鹿児島医療センターから配置換えで参りました西岡恵子と申します。どうぞよろしく願いいたします。今回地元である熊本に戻ることができ大変うれしく思います。

はじめて訪れた熊本再春医療センターは桜並木が美しく広大な土地に新病院がそびえたっていました。緊

張の一方でほっとした気持ちにもなりました。素晴らしい環境下で勤務させていただくことに感謝いたします。

7階病棟は呼吸器内科と小児科の混合病棟で化学療法の必要な診療科の患者さんも入院されています。多岐にわたるライフステージの患者さんを対象に病院理念である「思いやりの心で患者、地域、職員に愛される病院」のもと、信頼できる医療を提供できるよう努めてまいりたいと思います。

わからないことも多くご迷惑をおかけすることありますが、どうぞよろしく願いいたします。

### 3階病棟 看護師長 西村 昌修

4月1日付けで熊本医療センターより昇任で参りました。3階病棟看護師長の西村昌修と申します。

前職場では、外科、泌尿器、腎内、感覚器、整形と外科系を中心として経験しました。また救急外来での勤務もしておりましたので、当院の救急の力添えになれるよう経験を活かしていきたいと考えております。

私の強みとしましては、DMAT隊員の資格を持っており、熊本地震や熊本豪雨災害では現場活動を行っており災害に関する経験があることや、クリティカルパスに関する業務に長年携わっており、人一倍詳しいことだと思っています。プライベートに関しましては、現役で野球をやっていることなどスポーツが大好きですので、そのような催し物があれば参加させていただきたいと思っていますので、ぜひお声掛けください。

初めての病院異動で慣れないことが多く、皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、これから様々なことを学び成長していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程宜しく願い致します。

### 手術室 看護師長 岩下 美保

皆さま、初めまして。今年4月より熊本再春医療センター手術室で勤務することになりました岩下美保と申します。

当院の手術室は3室と小規模ですが、整形外科・消

化器外科・呼吸器外科の手術を中心に年間約 850 件の手術を行っています。施設の規模に対しては多い手術件数ではありませんが、肩・膝・股関節の手術や骨折、腱板断裂の手術、腹腔鏡下・胸腔鏡下手術と、95%以上が麻酔科管理（全身麻酔が約 80%）で行われる、比較的侵襲の大きな手術が多い印象です。以前の療養所のイメージを持っていたので、これほど手術を積極的に行っていることに驚きつつ、十数年前の手術室勤務の経験を思い出し、悪銭苦闘の毎日です。

私はこれまで、福岡県内の病院で勤務していましたが、地元の熊本県に帰ってくることができました。生まれも育ちも南小国町。スタッフの熊本弁が懐かしく、病院の 8 階から見える大好きな阿蘇の景色が懐かしく、忙しい日々の中にも、癒しを感じながら勤務しています。もう少し余裕ができたなら、阿蘇にドライブに行きたいと思っています。

近隣の住民でも手術をしていることを知らない方もおられるようです。整形・消化器・呼吸器の手術が必要になったら、頼もしい手術スタッフが万全の体制で患者さんの受け入れ準備をしています。

熊本再春医療センター、皆さんも覗いてみませんか？

## ■ 事務部

### 事務部長 馬渡 永年

令和 3 年度からの 2 年間は熊本県八代市にある地域医療機能推進機構（ジェイコー）九州地区事務所で勤務しておりまして、この 4 月に事務部長として着任しました馬渡（マワタリ）と申します。今は形も残っていませんが、福岡市中央区にある大濠公園に隣接した国立福岡中央病院を振り出しに、九州各地とまではいきませんが、福岡県～大分県～長崎県～佐賀県～宮崎県を巡り、事務部長職は宮崎病院と西別府病院で経験させていただきました。そこではセーフティネット分野の医療にも携わり勉強させていただきましたので、一般医療と障害系医療を併せ持つ当院の強みを活かし、アフターコロナを見据えた経営戦略をもって経営基盤の確立を図ることは基より、合志市の土地開発事業や大企業誘致等が進む中、当院も“街づくり”の一環を担う中核病院として地域への貢献ができるよう、加えて、職員が働きやすい病院、人が集まりここにたたくなる（再春で働き

たい）病院を目指して、微力ではありますが、精一杯頑張りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

### 管理課長 濱口 仁博

4 月 1 日付で熊本南病院より配置換で管理課長として着任しました濱口と申します。私は、国立療養所再春荘病院の時に最初の赴任先として昭和 61 年 4 月から平成元年 6 月まで勤務させていただき、34 年振りに帰ってきました。当時 4 階建ての病棟が出来て引越し作業を行ったことを懐かしく感じています。その病棟が管理棟としてリニューアルされ今勤務できて嬉しく思います。これから発展していく合志市の中核病院として、地域に愛される病院となりますよう、微力ではございますが頑張りますので、よろしくお願いいたします。

### 経営企画室長 奥本 道仁

4 月 1 日付で九州がんセンターより参りました経営企画室長の奥本と申します。

当院での勤務は 7 年ぶり 2 回目になります。当時のきれいな桜並木を思い出し懐かしく感じておりましたが、病院名が変わり、新病院が建ち、当時とはまた違ったすばらしい環境で働けることに感謝しています。赴任時は桜が散り始めており少し残念でしたが、密かに来年の満開の季節を楽しみにしています。

経営企画室の立場として、当院の経営基盤の安定に貢献することはもちろん、当院は菊池地域の中核病院として、地域医療に貢献していく使命がありますので、医療連携の推進に微力ながらお役に立てるよう頑張ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

